

日本不動産学会長賞

サステイナブルなコミュニティ創造と地域活性化拠点整備プロジェクト ～歴史的な文化資源を活かした市民主体による共創プロジェクト～

富谷市 富谷市長 若生 裕俊
公立学校法人宮城大学 理事兼副学長 風見 正三

〔授賞理由〕

本業績は、地方創生拠点整備交付金を活用した施設整備を核とし、地域商社が新たなビジネスを創出し、収益を地域に再投資していくというサステイナブルなエリアリノベーション事業を展開しながら、継続的に不動産価値を生み出していく仕組みを実践している点に特徴がある。空き家を地域資源と捉えて整備し、持続的・連鎖的なビジネス創出のための資源化を図っており、SGDs への貢献も期待される。公的な主体が空き家・空地を取得することは、行政財産の管理上、多くの困難を伴うことを鑑みると、本業績は地域活性化拠点整備プロジェクトのメリットを生かしたランドバンクの先駆けとして評価することもできる。さらに、拠点整備にとどまらず、誰もが地域に根ざした起業・創業に挑戦できる仕組みを提供するなど、産業創成と人材育成をも目指しており、今後の地域の発展に寄与するものと評価することができる。市民中心のコミュニティを主体としながら、富谷市と宮城大学の共創プロジェクトにより短期間で事業を実現している点も優れている。地域住民が自らまちづくりに参加したいという気持ちを醸成するなど、コミュニティデザインを行ったことの価値も高い。本事業は不動産価値を創造する地方創生モデルの成功例として高く評価することができる。

よって、本事業は、業績賞授賞に値する。